

(令和6年10月)

種 類	市況の概要
(青果部の動向) 青 果 全 般	10月は、前年と同様に、天候不順の影響から多くの品目で品質や収量の低下がみられたため、総入荷量、総取扱金額ともに、前年同月並みであった。今後、入荷は徐々に回復傾向となるものの、入荷量の不足による単価高で推移することが予想される。 11月は、野菜では、聖護院だいこんや大かぶ、海老いも等の入荷が増える。果実では、みかん類は早生種が出始め、りんご類はサン富士が主力となり、柿類は富有柿やアンプ柿の入荷が増える。
野 菜	野菜全般の入荷量は前年同月並みであり、単価は3%上回った。 根菜類の入荷量は前年同月比で12%下回ったが、単価は、前年高値であった西洋にんじんの単価下落の影響が大きく、全体としては19%下回った。 葉菜類の入荷量は前年同月並みであったが、単価は7%上回った。 果菜類の入荷量は前年同月比で16%上回り、単価は4%下回った。 土物類の入荷量は前年同月比で7%下回ったが、全体的に単価高で推移した前年と比べ単価は6%下回った。
果 実	果実全般の入荷量は前年同月比で7%下回り、単価は12%上回った。 かんきつ類の入荷量は前年同月比で33%下回り、単価は31%上回った。 りんご類の入荷量は前年同月比で3%下回ったが、単価は3%下回った。 柿類の入荷量は前年同月比で21%下回り、単価は7%上回った。 ぶどう類の入荷量は前年同月比で36%上回り、単価は8%下回った。 メロン類の入荷量及び単価はともに前年同月並みであった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長だいこん	北海道を中心に、岩手、石川、青森、千葉などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１６％下回ったが、単価は前年同月並みであった。
西洋にんじん	北海道を中心に、中国からも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は５５％下回った。
【葉菜類】 はくさい	長野を中心に、茨城、北海道、栃木、兵庫などからも入荷した。入荷量及び単価はともに前年同月並みであった。
キャベツ	群馬を中心に、長野、茨城、滋賀、愛知などからも入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は１５％上回った。
ほうれんそう	岐阜を中心に、茨城、和歌山、滋賀、京都などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１１％下回り、単価は６％上回った。
レタス	長野を中心に、長崎、茨城、兵庫、徳島などからも入荷した。入荷量は前年同月比で６％下回り、単価は３３％上回った。
【果菜類】 きゅうり	佐賀、北海道、滋賀、福岡、京都などから入荷した。入荷量は前年同月並みであったが、単価は１６％上回った。
なす	高知を中心に、京都、岡山、徳島、香川などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１２％上回ったが、肥料や生産資材の経費高の影響から単価は９％上回った。

とまと	岐阜、北海道、熊本を中心に、福岡、滋賀などからも入荷した。入荷量は前年同月比で３７％上回り、単価は１１％下回った。
ピーマン	大分、茨城を中心に、高知、宮崎、兵庫などからも入荷した。入荷量及び単価はともに前年同月並みであった。
【土物類】	
ばれいしょ (メークイン含む)	北海道から入荷した。入荷量は前年同月比で７％上回り、単価は４％下回った。
たまねぎ	北海道を中心に、兵庫、中国、京都などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１２％下回ったが、単価高で推移した前年と比べて単価は１３％下回った。
【その他野菜】	
松茸	中国を中心に、アメリカ、カナダ、長野、岩手などからも入荷した。入荷量は前年同月比で２９％上回り、単価は３２％下回った。
栗	愛媛を中心に、京都、茨城、熊本、山口などからも入荷した。入荷量は前年同月比で１５％下回り、単価は１４％上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
極早生みかん	和歌山を中心に、熊本、宮崎、福岡、佐賀などからも入荷した。入荷量は前年同月比で３１％下回り、単価は３１％上回った。
富士	青森を中心に、岩手などからも入荷した。入荷量は前年同月比で９％下回ったが、単価は前年同月並みであった。
刀根柿・平核無柿	和歌山を中心に福井、山形、新潟、奈良からも入荷した。入荷量は前年同月比で２０％下回り、単価は１３％上回った。
シャインマスカット	長野、山梨を中心に、岡山、鳥取、香川などからも入荷した。入荷量は前年同月比で５２％上回り、単価は１１％下回った。
アールスメロン	静岡、茨城、鳥取、高知、山形などから入荷した。入荷量は前年同月比で３０％下回り、単価は６％上回った。